



大塩英男新町長 「共感ひろがる 信頼のまちづくり」を掲げ、町政の新たなかじ取り役に

前町長の辞職に伴い、12年ぶりの選挙戦となった3月5日の白老町長選で初当選した、前町企画財政課長の大塩英男新町長(51)。2024(令和6)年度には町制施行70周年を迎える本町も、全国の自治体にもれず少子高齢化、人口減、公共施設の老朽化、コロナ禍による経済的打撃、災害対策と、対応を迫られる課題は山積。町民の負託を受けた大塩新町長は公約で「子育て」「人口減対策」「暮らし」の三つの分野で「九つの目標」を示しました。職員、町民代表の議会での就任あいさつでは「町民の皆さんの視点に立ち、何ができるか、何をすべきかを念頭に、職員、議会と一緒に頑張りたい」と力強く意気込みを披露しました。(広報編集室)



「選挙期間中に寄せられた『役場がもっと頑張って、もっといいまちをつくってください』という町民の声が一番心に刺さりました。これは職員皆さんへのエール、役場への期待感です。その声に対し誇りと自信を持ってこれから一緒に仕事をしていただきたい(3月7日、職員への就任あいさつ)」

「子育て支援」「人口減少対策」「暮らしの充実」が町政の重点テーマ

「今の素直な心境はどうですか。」
 「右も左も分からなかった22歳の私を育ててくれた白老に恩返しをしたいという思いです。選挙を通して役場への期待の大きさを実感しました。それをきちんと受け止め、白老町の新しい魅力を引き出したい。」
 「町民は新リーダーに何を求めていると思いますか。」
 「役場出身者に役場を変えられるの?という声はたしかに聞きました。私が役場出身という事実が変わりません。間を大切に、行政経験を生かして町政に取り組むことを言う、やってもらおう時もあるでしょうが、それを乗り越える信頼関係を築いてきた自負もあります。職員と一緒に白老を変えていけると思っています。」
 「公約と特に力を注ぎたいことは何ですか。」
 「重点テーマとして『子育て支援』『人口減少対策』『暮らしの充実』を挙げました。特に子育て支援には力を注ぎたい。この枝として『九つの目標』を掲げさせてもらいました。一度白老から出ても、戻って来られるような、若者が働ける環境づくりを進め、高齢化率が高くてもコミニティーを充実させて安心して暮らせるまちづくりを目指したい。」



「町民の役場への期待に応えたい」と語る大塩新町長

透明性の高い、分かりやすい情報発信が信頼づくりの第一歩

「まち活性化の核といわれるウポポイの活用策は。」
 「コロナ禍も収束が見え始め、国内外からの観光客も増えています。いよいよ『本番』ということになります。おもてなしの態勢をはじめ、社台から虎杖浜までの経済循環を考えていかなければなりません。休日の虎杖浜や竹浦の飲食店の町外からのお客の、ウポポイに来たきっかけに立ち寄るなど、SNSによる観光資源の情報発信が本当に欠かせないですね。」
 「町民との信頼関係をどのように築いていきますか。」
 「役場は何をしていくんだらうか、という疑問に答える透明性の高い、分かりやすい情報提供・発信がまず信頼づくりの第一歩とと思っています。今の行政の課題は役場だけでは解決できません。町民の皆さん、企業、団体の力が重要です。そこ

「強い使命感を持ち全身全霊で町政運営に取り組んでいく所存」と、議会に就任あいさつをした大塩新町長(3月15日、定例会3月会議で)



「意見をいただき、それを役場が政策として実行していく。それが新たな白老町をつくるための道ではないでしょうか。その思いは必ず届くと思います。任期の4年間で『役場、変わったね』と皆さんから言ってもらえるよう頑張ります。」